



働くあなたのクリニック

家族が認知症 かもしれない? と思ったら

超高齢社会の進行と共に認知症の患者数は増え続け、現在、わが国では500万人を超えています。65歳以上の高齢者全体では15%ですが、高齢になるほど増えます。また、認知症ではないが正常範囲とも言えない「認知症予備軍」と言われる軽度認知機能障害の方がほぼ同数います。認知症は誰でもなり得る、ありふれた病気であると理解しておく必要があります。

まず、かかりつけ医にご相談下さい。かかりつけ医は必要に応じて認知症の専門医に紹介します。認知症は誰でもなり得る、ありふれた病気であると理解しておく必要があります。

誰に相談したらよいでしょうか?

することもあります。かかりつけ医がいない場合には岐阜県医師会の「はやぶさネット」から検索することもできます(後記参照)。介護や生活上のサポートについては地域包括支援センター(中学校区に1か所くらいあります)にご相談下さい。

受診にあたって医師に何を話したらよいでしょうか?

いつ頃から、どんな症状がでてきたのか、どんなエピソードがあったのか、経時的にメモしておきましょう。「この2〜3か月、急に悪くなってきた」と言われる家族が多いですが、じつは1〜数年前から始まっていることがほとんどです。季節行事や人の往来が多い時期でのきごと、例えば去年のお正月頃は？お盆の頃は？冠婚葬祭でお会いした頃は？と遡って思い出してみましよう。もの忘れ、性格・行動・言語の変化、車の小さな事故の有無、会話の理解、

相手や状況に応じた言動、集中力、貴重品や薬の管理、整理整頓、電話の使用、公共交通の利用、買い物・料理・洗濯などの家事に支障はないか、また、セルフケア(食事・トイレ・入浴・移動など)に問題がないか確認しておくことが大事です。

受診を本人が拒否する場合にはどうしたらよいでしょうか?

家族が「私が心配でしかたない、私のために受診して下さい」と懇願してみる。「高齢者の健康診断に行きましょう」と

勧めてみる。家族が「もの忘れ」で受診するので一緒に来て下さいと頼む。高血圧などの持病で通院している場合には、予め主治医に認知症の診断を頼んでおく。認知症の方は自分でも「何かおかしい」と不安に感じている場合が多いので気長に進めると良いでしょう。

認知症はアルツハイマーのことですか?

「認知症」の状態を引き起こすいくつかの病気をまとめて認知症と呼んでいます。わが国では

記憶・学習障害が目立つ「アルツハイマー型認知症」が最も多く60〜70%を占めています。このほか「血管性認知症」、「レビー小体型認知症」、「前頭側頭型認知症」を合わせて4大認知症といえます。これらの根本治療薬は開発途上ですが、現行の薬やケアで進行を遅らせたり、症状を軽減させることができます。一方、適切な治療で治せる認知症もわずかながらありますので、一度は医師を受診してみましよう。

ネットで認知症に対応してくれる医療機関の探し方



- 1 Yahoo!などで「岐阜県医師会」と「はやぶさネット」を入力して検索開始
- 2 「はやぶさネット：医療機関検索」をクリック
- 3 医療機関検索の画面で「地域」のところで、希望する地域を選んでチェック
- 4 しばらくスクロールして「認知症への対応」のところ、「対応する」をチェック
- 5 一番下までスクロールして「検索」をクリック
- 6 認知症に対応する医療機関名(連絡先)と地図上の位置が表示されます

今月の先生



岐阜市民病院 認知症疾患医療センター
犬塚 貴先生

専門分野 認知症、神経内科
役職 認知症疾患医療センター長
主な資格 日本認知症学会指導医・専門医
認定 日本神経学会指導医・専門医
日本老年病医学会指導医・専門医
卒業年 昭和51年卒